

つるみのぶかぶか作っちゃおっ♪ プロジェクト

上映会 & トークセッション

2019年11月4日(月・祝)

時間 14:00~16:30

場所 鶴見公会堂 会議室 JR京浜東北線 鶴見駅西口下車徒歩1分

参加費 無料

西友の6Fです



開催趣旨

皆さんは障害者と聞いてどんなイメージを持ちますか？「可哀想な人」「なんとなく怖い」など多くの人は否定的かもしれません。

ところが、「障がいを持っている人とは一緒に生きていた方がトクだよ。」と言い出した人がいます。

それがNPO法人ぶかぶか代表の高崎さんです。

ぶかぶかのドキュメンタリー映画「Secret of Pukapuka」を上映後、スペシャルゲストを交えてトークセッションします。障がいがある人と一緒に生きていくこの何がそんなにトクなのか、そのヒミツを探しにきませんか？

ぶかぶかを知れば、ほっこり温かい気持ちになること間違いないし。

一緒にぶかぶかしましょう♪

「ぶかぶかって？」

横浜市緑区霧が丘に「ぶかぶか」という面白いお店があります。パン屋、お惣菜屋、アートスタジオ、ごはん処があって、障がいのある人たちが働いています。と書くと「ああ、福祉事業所か」と想っている人は思います。でも「ぶかぶか」は違います。よくある「福祉事業所」とはほど遠い雰囲気です。

何が違うのか。

やたら明るくて、やたら楽しそう。なによりも元気！しかもみんな笑顔で働いています。さらに、ここで働く人たちには、たくさんのファンがついているのです。

★スペシャルゲスト★

ぶかぶか代表
高崎 明さん

ぶかぶかさんのお母さん
辻 信子さん

主催：リズムの会

ぶかぶか作り隊

後援：鶴見区社会福祉協議会

鶴見区役所／エンゼルの会

【お問合せ先】

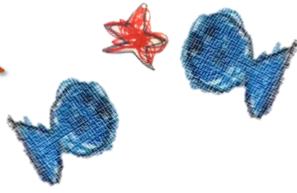
tsurumi.de.pukapuka@gmail.com

Facebookでも
案内しています⇒
ご質問等もお気軽
にどうぞ





ペシャルトークゲストの紹介



高崎 明 さん



NPO 法人「ぶかぶか」理事長。2010 年 3 月まで約三十年間、養護学校教員を務め、惚れ込んだ障がいのある人たちと一緒に働く場「ぶかぶか」を 2010 年 4 月より始める。パン屋（「カフェベーカリーぶかぶか」）とカフェから始め、四年後に「おひさまの台所」（弁当、惣菜のお店）、五年後に「アート屋わんど」（アートスタジオ）、八年後にカフェに代わって「ぶかぶかさんのお昼ご飯」（ぶかぶかさんと一緒にお昼を食べる食堂）を始めた。



辻 信子 さん

歌やおしゃべりの BGM で、一瞬にして和やかな場を作り出したり、レジよりも早く正確なお会計のパフォーマンスなどでお客さんを魅了させている「ぶかぶかのツジさん」のお母さん。

社会に合わせるべく大変な努力（ツジさんの場合はおしゃべりをやめさせること）をしてきた方ですが、なかなかうまくいきませんでした。ぶかぶかに来てから、「そのままでいいよ」と言われ、しかもおしゃべりが売り上げを生み出していることを知り、「今までやってきたのはなんだつたんだ」「見当違いの努力だったんじゃないかな」と気づかれたそうです。社会に合わせるための見当違いの努力からの「開放感」は、未だに忘れない、とのこと。自分らしく生きることについて、お話をうかがいます。

『ぶかぶか物語』の紹介 現代書館より発行



「障がいのある人たちとは一緒に生きていた方がトク」というメッセージを様々な形で発信し、障がいのある人もない人も、お互いが暮らしやすい地域を作る。そんな NPO 法人「ぶかぶか」の日々の積み重ねから豊かな社会が見えてくる。「共に生きる」という総論には賛成でも、近くに障害者施設ができると「地価が下がる」「何が起きるか心配」などの偏見から反対運動が起きる。相模原障害者殺傷事件に象徴されるように障害のある人たちが排除されがちな社会にあって、「ぶかぶかさん（利用者をこう呼ぶ）が好き！」というファンを増殖させ、障害のある人と一緒にいた方が楽しいと思わせてくれる、ぶかぶかさんたちの魅力あふれる一冊。

